

「広島派遣研修を振り返って」

青海中学校 2年 馬場 一太

私にとってこの広島派遣研修は、とても貴重な体験になりました。これまでは、新聞や本、ネットなどでしか知ることができませんでした。ですが、今回の研修で実際に広島に行って、普段ではできない様々なことを見て、聞いて、体験することができました。そんな貴重な時間の中で私の印象に深く残ったことが3つあります。

1つ目は、千羽鶴献納のときです。私たちは広島に来て最初に平和記念公園を見学し、原爆の子の像で私たちが学校で作った千羽鶴を献納しました。像の周りには数えきれないほどの折り鶴が献納されていて、たくさんの人が平和を願っているのだと感じました。

2つ目は、実際に広島の前爆を体験した佐伯克彦さんの講話です。克彦さんから被爆時、広島がどんな状況だったのかを詳しく教えてもらいました。そこで私が学んだのは、被爆者が熱線や放射線による怪我だけではなく、差別にも苦しんでいたということです。例えば、被爆者と結婚をすると、よくない子どもが生まれる、広島には放射能が漂っているなどの差別や偏見を受け、苦しい思いをしていたということを知りました。ただでさえ原爆の影響で苦しんでいる人達がいるというのに、その人達が差別や偏見を受けなければいけないのかと胸を締め付けられました。しかし、現在でも同じようなことが様々な所で起こっています。例えば 2011 年に起きた福島原発の事故では、避難してきた子供がいじめにあ

ったり、宿泊施設やガソリンスタンドの利用を拒否されるなどの、放射線への誤解から、差別や偏見が起きていました。

3つ目は、平和記念資料館です。そこでは原爆によって命を落とした人が遺した衣服や家具、被爆した人が撮った写真などが展示されていました。その中に、被爆時の広島全体の写真がありました。その様子を見ると、ほとんどの建物が全壊し、木々は朽ちてまさに地獄のようでした。被爆者は熱戦や放射線の影響で皮膚がただれたり、火傷を負うなどの怪我に苦しんでいたということを知り、原爆がどれほど恐ろしいもので、繰り返してはいけないものだ、ということを深く知ることができました。

私はこの広島派遣研修を通して、原爆の恐ろしさや悲惨さを学びました。現在、広島では原爆や戦争のことを伝え、平和に向けて活動しています。ただし、広島県や広島県民に対する差別が完全になくなったわけではありません。被爆者の人達の講話から僕が学んだことは、「正しく伝える」ということです。現地で学んだことを決して忘れず、これから多くの人に伝えていきたいと思います。
